

桂 沢

L₁

一九八五年九月二二日

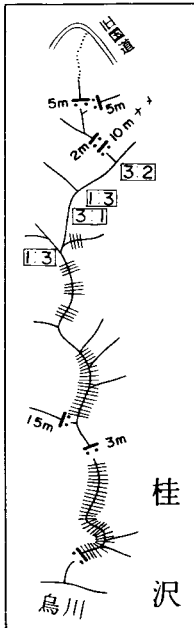
旧国道より沢へ。入口部分がひど

いヤブだったが、すぐに歩きやすくなり、沢に出た。すぐに、F3五^分。

滝となつて沢が合流していた。

このあとカーブをえがいてナメ状に落ちる一〇^分滝があるが、それを過ぎると沢は平凡となり、いくつもの支沢が合わさるようになる。

沢の左手に炭焼き釜跡を見て進むと、ナメが断続的に出てくる。スケールは大きくないが、



なかなか感じのよいナメである。

このあたりで空模様があやしくな

クモ 沢

L₂

一九八二年八月二九日

林道を枯松沢出合まで歩いてから沢に入る。鳥川本流を西・安藤パー

ってきたので、ぐんぐんスピードを上げて下る。小滝を過ぎると、鳥川本流は目の前であった。

(記)

〔タイム〕 下降開始(一二:四〇) ↓

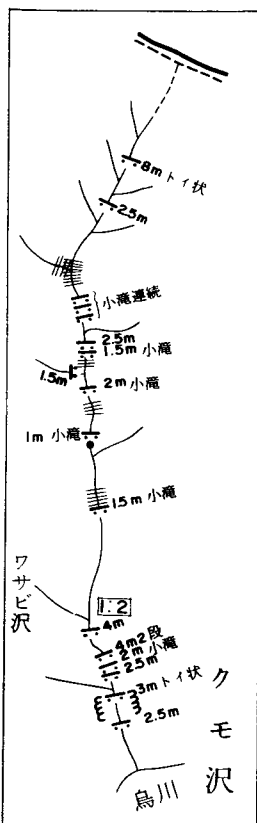
鳥川本流(一三:三〇)

ティと一緒に歩いてクモ沢出合へ。

一二時四五分、出合着。

クモ沢に入ると、すぐ二つの小滝がかかり、先が楽しみになってくる。続いてF3、F4と小さいが滝が次々と現れる。

沢が逆S字に曲がったところにもF5四^分。ここまで来ると水量もだ



いぶ少なくなり、源流のようである。小滝、ナメが繰り返す中をなおも登る。

F8 八びトイ状を越える。水も無くなってきた。

最後の二俣を右に入り、すぐヤブこぎ。二〇分程で、踏跡のある尾根に出た。

〔タイム〕クモ沢出合(一二・四五)

↓尾根(一四・三五)

ワサビ沢右俣

一九八六年八月二五日

一二時三〇分、右俣の下降を開始する。この沢もやはりナメである。黒みを帯びた花崗岩で、ちよつと硬

質。このナメはほとんど途切れることなく続き、途中にポツリポツリとナメ状の滝がある。

花の美しい樹木②

ホオノキ(モクレン科)

春、木々の間に白く大きな花をつけ、モクレン科特有の芳香を放っているが、残念ながら、私が摺上川流域を訪れるのは夏であり、ここで花に出会ったことはない。

ホオノキの葉は大きく、長さ二〇〜四〇センチにもなる。風車のように輪状に葉をつけるので、夏でもすぐ判別できる。

材質は柔らかくて、細工しやすいのも大きな特徴である。山形県の有名な笹野一刀彫の材料は、このホオノキである。そのほかに、下駄の材料などにも使われている。

(大西)